

野田佳彦 yoshihiko noda

野田佳彦(のだ よしひこ)は、1957年5月20日に千葉県船橋市で生まれた日本の政治家である。中道改革連合などに所属し、民主党政権期を中心に国政の要職を歴任、戦後日本政治の転換期において重要な役割を果たした人物の一人である。家系に政治家はおらず、父は陸上自衛官という一般の家庭で育った。

野田は早稲田大学政治経済学部政治学科を卒業後、松下幸之助が設立した松下政経塾に第1期生として入塾し、政治の基礎を学んだ。その後、家庭教師や都市ガスの点検員などを経て、1987年に千葉県議会議員に初当選した。1993年には日本新党から衆議院議員選挙に立候補して初当選を果たし、国政へと進出。以降、新進党を経て民主党の結党に参加し、地道な国会活動と駅前での辻説法(街頭演説)を続けることで政治家としての基盤を築いた。

政界入り後は、民主党内で国会対策委員長などの要職を歴任し、頭角を現した。2009年に民主党を中心とする連立政権が誕生すると、鳩山由紀夫内閣で財務副大臣に就任。続く菅直人内閣では財務大臣として初入閣を果たし、日本の財政政策の舵取りを担うとともに、国際会議の舞台で日本の立場を主張した。

2011年、民主党代表選挙を制した野田佳彦は、第95代内閣総理大臣に就任した。在任期間は2011年9月から2012年12月までの約1年3ヶ月であった。この時期は東日本大震災からの復興や原発事故への対応、円高対策など山積する課題に直面していた。野田内閣は「決められない政治からの脱却」を掲げ、社会保障と税の一体改革(消費税増税法案の成立)に政治生命を賭けて取り組んだ。しかし、党内分裂や世論の反発を招き、2012年末の衆議院選挙で民主党は大敗し、政権交代を余儀なくされた。

総理大臣退任後も、野田は政界から退くことなく、一介の議員として活動を続けた。民主党解党後の民進党では幹事長を務め、その後は無所属や立憲民主党の代表などを経て、中道改革連合の結成に関わるなど、野党陣営の重鎮として存在感を示し続けた。

政治思想の面では、野田佳彦は中道改革や現実的な保守の立場を取り、財政規律の重視や現実的な外交・安全保障政策を推進する政治家として知られている。自らを地味で泥臭い「ドジョウ」に例えるなど、実直で誠実な人柄が広く知られており、その巧みな演説力は与野党を問わず高く評価されている。

野田佳彦は、非自民政権の首相経験者としてだけでなく、厳しい政局の中で国の将来を見据えた政策形成に関わってきた重要な政治家であり、その卓越した調整力と発言力は現在に至るまで続いている。

